

各企業等の社会貢献

車いす寄贈 10年で32台

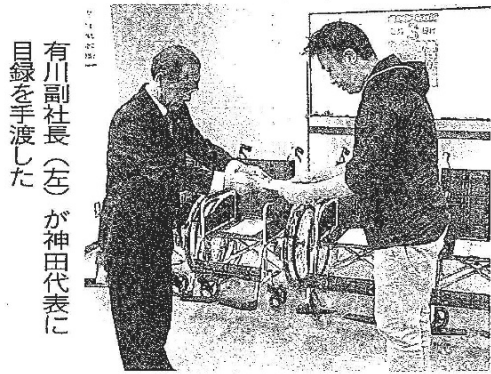
認知症高齢者施設で活用

宮坂建設工業が札幌北区内

宮坂建設工業(株) (帯広、宮坂寿文社長) は二十六日、地域の社会福祉向上に役立ててほしいと、同社札幌支社が事務所を構える札幌市北区内の社会福祉協議会に車いす五台を寄贈した。

北区内で行われた贈呈式には、有川進副社長、佐々

木勝幸事務が出席。有川副社長が「地域の皆さんに大変お世話になっている。車いす寄贈は今回で十回目になるが、今回は台数を増やし五台を贈らせていただく」とあいさつし、北区内の神田崇代表に目録を手交。同社には北区内社会福祉協議会から感謝状が贈られた。



有川副社長(左)が神田代表に目録を手渡した

すの需要は多いので大変助かる。使用中の車いすに傷みも出るので、更新にも活用できる」と感謝していた。同社の車いす寄付は平成二十年から毎年継続し十回目。廃品回収業者のリサイクルポイント制を活用し、本社と出先を置く帯広、札幌、釧路の三市に贈呈を続けている。

北区内への寄贈は今回を含め計三十二台となった。残る二市には五月中旬に贈呈する。

札幌市北区内に車いす5台寄贈

宮坂建設工業札幌

宮坂建設工業札幌支社(札幌市北区、蔵田忠広社長)は26日、札幌市北区内社会福祉協議会に車いすを寄贈した。写真。2008年から毎年3台ずつ寄贈し、今回が10回目。こころは札幌支社の開設75周年でもあり、



2つの節目が重なることから、台数を5台に増やした。

北区内で行われた贈呈式には同社から有川進副社長、佐々木勝幸札幌支社副社長、協議会の石山克徳常務理事、札幌市北区グループホーム管理者連絡会の神田崇代表が参加。車いすは同連絡会を通じて区内の福祉施設に割り当てられる。有川副社長は「今後も社会福祉の役に立てるよう活動していきたい」とあいさつし、目録を贈呈。神田代表は「車いすは不足気味。非常にありがたい」と感謝した。